

そんけい すべき ムスリム の みなさま！

さきほど ろうどく した しょうく において、ぜんのう の アッラー (スブハーナ ワ タアーラー) は つぎ の ように つげて おられます。「しんじる もの たち よ。アッラー が あなたがた に ごうほう と した よいもの を きんじては ならない。ほうに はずれては ならない。ほんとう に アッラー は、ほうがい の もの を あいさない」¹ わたしたち の よげんしゃ ムハンマド (かれ の うえ に しゅくふくと へいあん あれ) は、ハディース の なか で つぎ の ように かたっています。「なに が ごうほう か は あきらか であり、 なに が ごうほう でない か も あきらか である。そして その あいだ には、おおく の ひと が しらず に いる ふめいりょう な もの がある。ふめいりょう な もの から み を まもる もの は、みずから の しゅうきょう と めいよ において けつぱく である。しかし ふめいりょう な もの ごと に おちいる もの は、ごうほう でない もの ごと に おちいる。……」²

しんあい なる しんこうしゃ の みなさま！

ハラール と ハラーム は、しゅ (スブハーナ ワ タアーラー) が わたしたち の げんせ の せい の たため に かりつ した きょうかい せん です。ハラール と ハラーム は ひろい はんに わたる がいねん であり、 いんしよく だけ に かぎられる こと では ありません。

しゅ (スブハーナ ワ タアーラー) が わたしたち に あたえて くださった じゅんすい な せいしつ を まもる ことば や こうい は、なんでも あれ ハラール です。この せいしつ や じゅんけつ、そんげん、そして おんちよう を そこねる もの は、なんでも あれ すべて きんじられて います。アッラー (スブハーナ ワ タアーラー) が おみとめ になった よい もの は すべて ハラール です。いっぽう で、アッラー (スブハーナ ワ タアーラー) の おいかり を まねく、この ましく ない もの は すべて ハラーム です。ハラール と ハラーム の いずれも が しれん の いちぶ です。ハラール に まんぞく する こと は いっしゅ の すうはい ですし、ハラーム を ひかえる こと も そうです。ハラール な もの を ハラーム あつかい し、ハラーム な もの を ハラール あつかい する こと は、しんこう を きずつける じゅうだい な つみ となります。

しんあい なる しんこうしゃ の みなさま！

わたしたち の しゅうきょう に したがう なら、なに が ハラール で なに が ハラーム なのか を けつてい する けんげん は、アッラー (スブハーナ ワ タアーラー) と、その ゆるし を えた よげんしゃ (かれ の うえ に しゅくふくと へいあん あれ) に あります。わたしたち の しゅ (スブハーナ ワ タアーラー) は、こうき なる クルアーン を とおして、なに が ハラール で なに が ハラーム なのか を おしえて くださって います。また、しんこうしゃ として どう いきるか については、わたしたち の よげんしゃ が おしえて くれて います。

しんあい なる ムスリム の みなさま！

あく を さけ、ぜん に かこまれて いる かぎり、わたしたち は おだやかに いきて いく こと が できます。ハラーム から とおざかる ほど、しゅ (スブハーナ ワ タアーラー) の じび に ちかづく こと が できます。つみ から きよりを おいて いる かぎり、アッラー (スブハーナ ワ タアーラー) の ごぜん において たかめられる こと でしょう。

しんあい なる きょうだい、しまい の みなさま！

ぜんいん で いのり ましょう。「わたしたち の よげんしゃ (スブハーナ ワ タアーラー) の、『しゅ よ、わたし が あなた に かんしゃ する もの で あります ように。あなた を おもい おこし、あなた を おそれ、あなた に じゅうじゅん で、あなた に けんきよ で、いつでも あなた に こいねがう もの で あります ように』という いのりに、こころ から の『あーみーん』を」³ いましょ。

¹ Ma'idah, 5/87.

² Bukhari, Iman, 39; Muslim, Musaqat, 107.

³ Ibn Majah, Du'a, 2.